

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

魅力があって、信頼される堺聴覚支援学校
～ 伝えあう 学びあう 育ちあう ～

個々の幼児児童生徒の障がいと学習状況に応じて豊かな言語力と生きる力を育むために、幼稚部・小学部・中学部の一貫した専門的支援を実施するとともに、大阪府南部における聴覚障がい教育のセンター的役割を果たす。

- 1 「個別の教育支援計画」に基づく指導を充実する。
- 2 専門的指導力の継承と発展を図る。
- 3 聴覚障がい教育のセンター的機能を充実する。

2 中期的目標

1 安全・安心な学校づくりを推進する

- (1) 負傷事故の発生を未然防止する。
- (2) 医療的ケアを安全・適正に実施する。
- (3) 防災・防犯体制を充実する。

2 「個別の教育支援計画」に基づく指導を充実する

- (1) 「個別の教育支援計画」を活用し、豊かな言語力と確かな学力を育てる。
 - ・幼稚部では、生活体験豊かにし、確かな言語力を育む。
 - ・小学部では、習熟度別の教科指導を実施し、学力の積み上げを図る。
 - ・中学部では、各教科別の学力向上を図るとともに、各種検定試験にチャレンジし、資格の数を増やす(英語検定、漢字検定、パソコン検定)。
- (2) 将来を見据えたキャリア教育に取組み、自主・自立する力を育む。
 - ・幼稚部では、保護者に障がいの状況や就学に関する適切な情報提供をする。
 - ・小学部では、交流学习を通して、自らの障がい認識を深めると共に他者との関わりを広げる。
 - ・中学部では、多様な進路情報の提供や職場見学を通して、将来の自立を見据えた進路選択を支援する。

3 専門的指導力を継承し発展させる

- (1) 校内研修を充実する。
 - ・新転任者研修を充実する。
 - ・全教員が、聴覚管理と活用、発音指導及び多様なコミュニケーション手段について習熟する。
 - ・人工内耳について研修し、効果的な支援方法を検討する。
- (2) 授業改善を図る。
 - ・日常的な、相互研鑽、OJTを通じて授業改善を図る。
 - ・研究授業を通じて、授業力の向上を図る。
- (3) ICT機器を活用し、幼児児童生徒が理解しやすい学習環境を整備する。
 - ・ICT機器を授業において活用し、児童生徒の学力向上を図る。
 - ・幼児児童生徒が双方向で情報活用できる教育を推進する。

4 聴覚障がい教育のセンター的機能を充実させる

- (1) 聴覚障がい児に対する早期からの一貫した支援を実施する。
- (2) 通級による指導で学習効果を上げ、児童生徒の自信と意欲を向上させる。
- (3) 小学校等からの聞こえや言葉に関わる多様な相談に対し、適切な支援を実施する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

| 学校教育自己診断の結果と分析 [平成 26 年 12 月実施分] | 学校協議会からの意見 |
|--|--|
| <p>評価の高い項目 (3 点満点) : 保護者</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 子どもは学校に行くのを楽しみにしている。(2.79) ② 教職員は、子どもの障がいを理解している。(2.55) ③ 学習の内容・学校生活の様子を知ることができる。(2.52) ④ 学校行事は、楽しく参加できるように工夫されている。(2.52) ⑤ 学校では豊教育の専門性を配慮した教育活動が行われている。(2.40) <p>評価の低い項目 (3 点満点) : 保護者</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 子どもが他の学校の子どもたちと交流する機会を設けている。(1.74) ② 環境、国際理解、福祉等について学ぶ機会がある。(1.76) ③ 学校は進路についての必要な情報を知らせてくれる。(1.86) ④ 学校は保護者のニーズにこたえている。(1.79) <p>全般的には、満足度が高い結果となっている。とりわけ「専門性を配慮した教育活動が行われている」は、幼稚部、小学部、中学部共に高い評価であった。教職員の評価でも「幼児児童生徒が豊かなコミュニケーションを獲得できるよう工夫している(2.78)」「学習内容や学習形態の工夫・改善を行っている(2.73)」となっているが、更なる研鑽、専門性の継承・向上が課題である。保護者評価が低かった項目①②③は昨年度より評価が上がっているが、引き続き、関連する教育活動の充実とその情報発信が必要である。「学校は保護者のニーズにこたえている」は、個々の保護者で評価にバラつきがあった。多様な保護者ニーズを受け止め、個別の支援計画に基づく指導・支援の積み上げとその結果説明が重要である。</p> | <p>第1回(7月10日)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 本年度の学校経営計画について <ul style="list-style-type: none"> ・教員と子どもの意志疎通はあらゆる指導の基本になる。そのために手話が必要である。 ・教科の指導に加え、挨拶やマナーといった社会規範の指導も推進してほしい。 ② 各部の重点課題 <ul style="list-style-type: none"> ・人工内耳装用の子どもが増え、インテグレートとの動きが強まるのではないかと。 ・聴覚支援学校に就学することが、将来の自立にプラスになると感じるように、特に学力保障に取り組んでほしい。 <p>第2回(12月2日)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 授業参観 <ul style="list-style-type: none"> ・聴力の差が学力差になっていないか：直接、学力差とはつながらない。 ・音楽では生徒が楽しそうに演奏や歌唱をしていた。昔の豊学校とは全くちがう。 ② 授業アンケートの結果について <ul style="list-style-type: none"> ・全般的には肯定的な評価が多い。 ・大学では、教員が学生の評価を見て、各教員が改善計画を立てる。 <p>第3回(2月19日)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 学校経営計画と評価について <ul style="list-style-type: none"> ・「保護者のニーズにこたえている」が低い。支援学校は子どもの教育ニーズに対応することと同時に保護者のニーズも受け止め、丁寧に対応する必要がある。 ・手話と口話は二者択一ではない。それぞれが良い形で活かせると良い。 ・聴覚障がい児の教育は難しい。アセスメントにより状況を把握して、言語力を高め、学力形成につながると良い。 |

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|---------------------|--|--|---|--|
| 1 安全・安心な学校づくりの推進 | <p>(1) 負傷事故の発生を未然防止する。</p> <p>(2) 医療的ケアを安全・適正に実施する。</p> <p>(3) 防災・防犯体制を充実する。</p> | <p>① 安全点検を徹底し、危険箇所の改修・安全対策を講じる。</p> <p>② 対象児の医療的ケアを適切に実施する。</p> <p>③ 教員を研修に派遣し、医療的ケアに従事できる者を増やす。</p> <p>④ 実際の防災訓練、防犯訓練を実施し、校内体制を充実する。</p> | <p>① 重大負傷事故発生0件</p> <p>② 不適切な処置、連絡ミス発生0件</p> <p>③ 認定従事者1名以上確保</p> <p>④ 学校教育自己診断(職員) 満足度 80%</p> | <p>① 大規模改修工事により危険箇所の改修・安全対策を講じることができた。重大負傷事故発生0件 (○)</p> <p>② 対象児が増えたが、不適切な処置、連絡ミス発生0件 (○)</p> <p>③ 認定従事者を新たに2名確保できた。(○)</p> <p>④ FM緊急地震速報と文字情報システムを連動させた。学校教育自己診断(職員): 満足度 73.3% (△)</p> |
| 2 指導の充実 | <p>(1) 豊かな言語力と確かな学力を育てる。</p> <p>(2) 将来を見据えたキャリア教育に取組み、自主・自立する力を育む。</p> | <p>① 幼稚部では、生活体験を豊かにし、多面的な言語活動(聴く、話す、読む)に結び付ける。</p> <p>② 小学部では、学年対応の生活と教科学習を基軸に、習熟度に応じた指導を実施し、学力の積み上げを図る。</p> <p>③ 中学部では、各教科別の学力向上を図ると共に、各種検定にチャレンジし、資格の数を増やす(漢字検定、読字力、英語検定、パソコン検定)。</p> <p>④ 幼稚部では、見学会や研修会を通じて将来の目標や就学に関する適切な情報提供をする。</p> <p>⑤ 小学部では、居住地校交流に取り組み、自らの障がい認識を深めると共に他者との積極的な関わりを広げる。</p> <p>⑥ 中学部では、豊富な進路情報を提供し、希望進路の実現を図る。</p> <p>⑦ 中学生シートを活用し、自立心を高める。</p> | <p>① 授業アンケート(保護者) 満足度 80%</p> <p>② 確認テスト 80点</p> <p>③ 定期テスト平均 70点 各種検定受検 70% (内、昇級者 50%)</p> <p>④ 学校教育自己診断(保護者) 満足度 80%</p> <p>⑤ 居住地校交流実施者 35%</p> <p>⑥ 希望進路実現 100%</p> <p>⑦ シート活用 100%</p> | <p>① 幼稚部では、生活と言語を結んだ学習を積み上げ、言語力を伸ばしている。 授業アンケート: 満足度 85.0% (○)</p> <p>② 小学部では、習熟度別の学習で基礎学力をつけている。6年生確認テスト平均点: 国語 72点、算数 82点 (○)</p> <p>③ 定期テスト平均: 国語 73点、社会 76点、数学 67点、理科 75点、英語 67点 (○) 各種検定受検(昇級者): 漢字検定 56%(88%) 読字力 94%(100%)、 (◎)</p> <p>④ 教育相談や小学校(部)見学をし、丁寧な就学相談を実施できた。 5歳児保護者満足度 80.0% (○)</p> <p>⑤ 居住地校交流実施者が昨年度から大幅に増えた。45.3.5% (◎)</p> <p>⑥ 希望進路実現 100% (○)</p> <p>⑦ 生徒が自己チェックし、レーダーチャートで努力を振り返った。活用 100% (○)</p> |
| 3 専門的指導力の継承と発展 | <p>(1) 校内研修を充実する。</p> <p>(2) 授業力向上を図る。</p> <p>(3) ICT機器を活用し、幼児児童生徒が理解しやすい学習環境を整備する。</p> | <p>① 新転任者が、聴覚管理と活用、発音指導及び多様なコミュニケーション手段、情報保障について習熟するよう研修を充実する。</p> <p>② 研究授業を実施し、授業力向上を図る。</p> <p>③ 電子黒板やタブレット型PC等の活用を図り、ビジュアルでわかりやすい学習支援を推進する。</p> <p>④ 研究授業開催、外部講師による校内研修、先進事例の研究を進め ICT 活用者を増やす。</p> | <p>① 新転任者アンケート 満足度 80%</p> <p>② 研究授業 10回実施 学校教育自己診断(職員) 満足度 80%</p> <p>③ 学校教育自己診断(生徒) 満足度 80%</p> <p>④ 授業における ICT 活用者 80%</p> | <p>① 新転任者研修 11回、初任者は年間研修と OJT で指導力の向上を図ってきた。 新転任者アンケート: 満足度 100% (○)</p> <p>② 研究授業 10回実施 学校教育自己診断(職員) 満足度 83% (○)</p> <p>③ 電子黒板 1台増設、無線アクセスポイント増加で ICT 活用が広がった。 学校教育自己診断(生徒) 78.4% (○)</p> <p>④ 授業における ICT 活用者 78.0% (○)</p> |
| 4 センター的機能の充実 | <p>(1) 早期からの一貫した支援を充実する。</p> <p>(2) 通級による指導で学習効果を上げ、児童生徒の自信と意欲を向上させる。</p> <p>(3) 小学校等からの聞こえや言葉に関わる多様な相談に対し、適切な支援を実施する。</p> | <p>① 病院や通所支援センターと連携して、早期教育相談を充実する。</p> <p>② 通級による指導において、個々の児童生徒の課題に応じた聴能学習、発音指導、教科指導を充実する。</p> <p>③ 小学校等からの聞こえと言葉の相談を充実する。</p> <p>④ 必要な巡回相談や聴覚障がい理解の講師派遣を行う。</p> <p>⑤ 学校ホームページを随時更新する。</p> | <p>① 年間のべ 700件 保護者アンケート 満足度 80%</p> <p>② 児童生徒アンケート 満足度 80%</p> <p>③ 相談件数 150件</p> <p>④ 巡回指導、講師派遣 合計 30件</p> <p>⑤ 年間 40回更新</p> | <p>① 対象児 29人について継続して教育相談を実施してきた。3月現在: のべ 923件 保護者アンケート: 満足度 95% (◎)</p> <p>② 対象児童生徒 34人について、個々の課題に応じた指導、支援を実施できた。 児童生徒アンケート: 満足度 81% (○) 保護者アンケート: 満足度 90%</p> <p>③ 様々な相談に丁寧に対応し、効果を上げている。 相談件数: 151件(103人) (○)</p> <p>④ 小学校、中学校で教員、児童生徒に対する聴覚障がいの理解啓発を推進している。 巡回指導、講師派遣: 37件 (○)</p> <p>⑤ 教育活動を積極的に発信している。 ホームページ: 70回更新 (◎)</p> |